

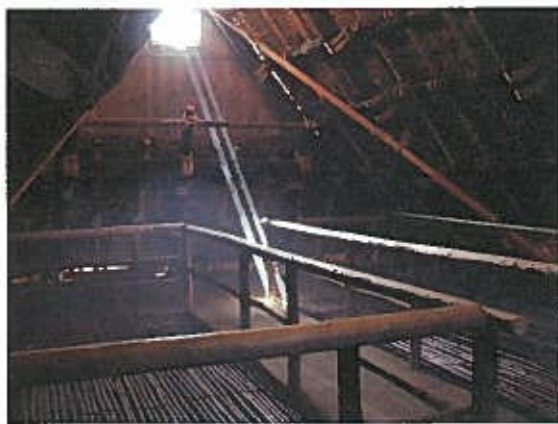
椋川の民話「れんげさん」(霊源和尚)のおはなし

昔、椋川のお寺に霊源(れいげん)という和尚がおりました。霊源さんは歯が悪くて、とても苦しんでおりました。

霊源和尚も年をとり、いよいよ臨終を迎えようとしたとき、椋川の村の人に「私は歯が痛んで苦しんだから、同じように苦しんでいる人の分まで背負ってあの世へ行く。だから道端に碑をつくって祀りなさい」と伝え息を引き取った。

村の人は、遺言どおり石碑をつくり祀った。石碑を拜むと不思議と歯の痛みが取れたという。その噂は広がって、今津、朽木、若狭からお参りする人も多かった。今でも村の人はその石碑を「れんげさん」と呼び、大切にしています。

椋川には豊かな自然とともに、このような古くからの言い伝えや暮らしの知恵や文化が残っています。



ツシ(小屋裏)も見ることが出来ます



開が裏端でお茶でも飲みませんか



おっきん椋川交流館(屋号・長五郎)の概要

おっきん椋川交流館は平成 21 年 4 月に開館しました。元々の建物ができたのは明治 13 年(1881年)と推定されています。梁行 4 間、桁行 6 間の合掌部分の 4 周に一間幅の葺おろし部分を回したもので、全体としては梁行 6 間、桁行 8 間の大規模なものであり、高島市内でも有数の農家建築です。このほど栗田俊栄夫妻のご厚意により、高島市に建物が寄贈され、地元住民や専門家が活用法の検討を重ねた末に、都市農村交流拠点施設として生まれ変わりました。現在は都市農村交流団体「結いの里・椋川」が指定管理をうけ、地域住民が中心になって運営しており、わら細工などの田舎暮らしを体験することができます(要予約)。



開が裏の上に架かる豪壮な木組み



わら細工などの体験もできます(要・予約)

